

令和5年度「全国学力・学習状況調査」指宿市結果報告

文部科学省は、義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てるために、小学校6年生と中学校3年生を対象とした全国学力・学習状況調査を実施しています。

指宿市では令和5年度の調査に全小・中学校が参加しました。教育委員会及び市内の各学校では、この結果をもとに実態を把握し、学力向上に向けた取組を更に充実していきたいと考えています。

なお、この調査は小学校第6学年（国語・算数）の2教科、中学校第3学年（国語・数学・英語）の3教科の実施であることから、市内の全児童生徒の学力傾向を示しているわけではありません。全体的な傾向と出題された領域を分析するものであることを御理解ください。

1 教科に関する調査の結果概要（平均正答数・平均正答率）

(1) 小学校6年生

小学校では、国語、算数ともに県平均正答率を下回った。特に算数においては、3%下がっており、令和4年度の指宿市の結果と比較すると6%下がった。

	国語		算数	
	指宿市	鹿児島県	指宿市	鹿児島県
令和5年度	9.0 / 14 問 (65%)	9.4 / 14 問 (67%)	9.3 / 16 問 (58%)	9.8 / 16 問 (61%)
令和4年度	9.2 / 14 問 (66%)	9.3 / 14 問 (66%)	10.2 / 16 問 (64%)	10.1 / 16 問 (63%)

※ 指宿市及び県平均正答率は、小数第一位を四捨五入した値（整数値）である。

(2) 中学校3年生

中学校では、国語、数学ともに県平均正答率をわずかではあるが下回った。

しかし、数学においては、令和4年度の指宿市の結果と比較すると2%上がり、前回調査より差が縮まった。

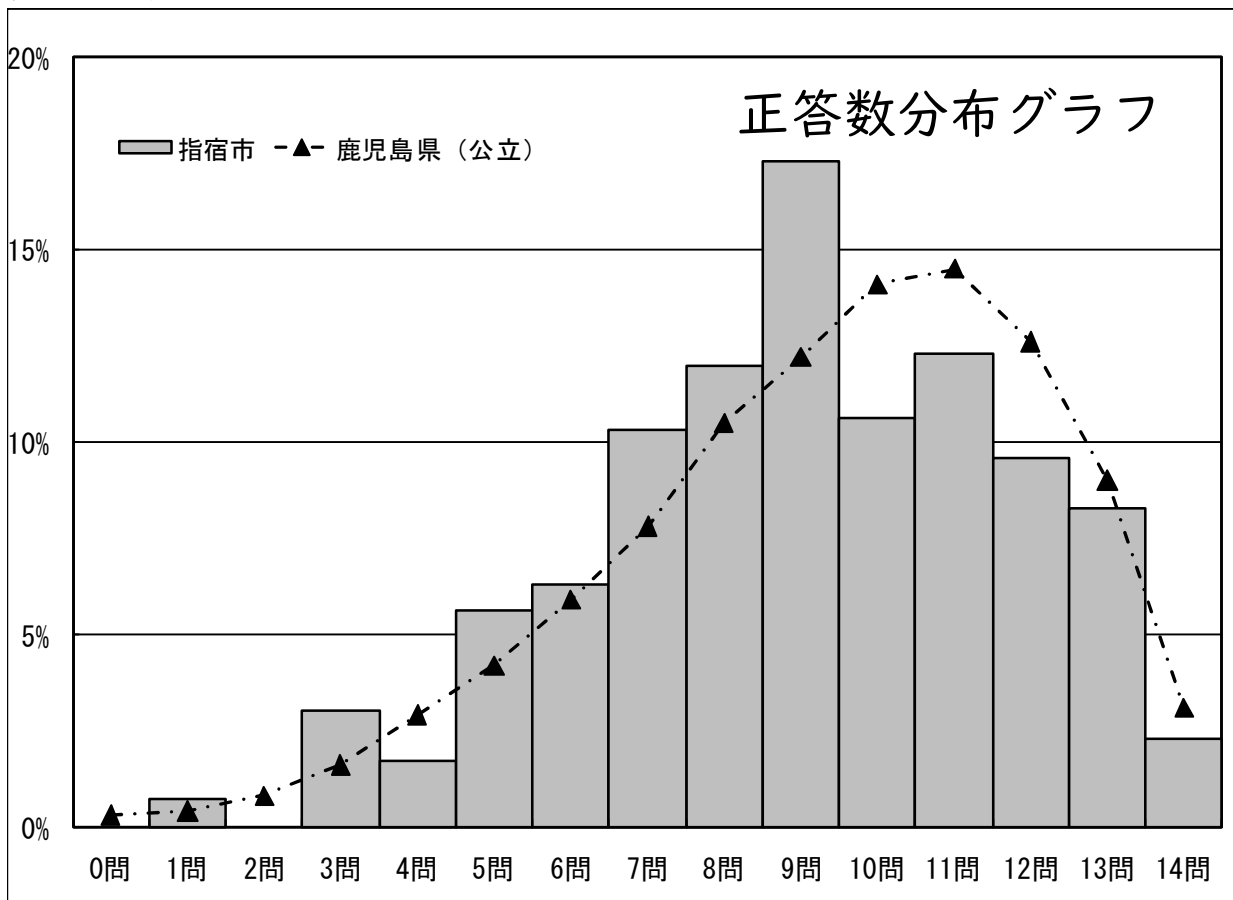
	国語		数学	
	指宿市	鹿児島県	指宿市	鹿児島県
令和5年度	10.3 / 15 問 (69%)	10.5 / 15 問 (70%)	7.1 / 15 問 (47%)	7.2 / 15 問 (48%)
令和4年度	9.9 / 14 問 (70%)	9.7 / 14 問 (69%)	6.4 / 14 問 (45%)	6.6 / 14 問 (47%)

令和5年度の中学校調査では、英語が実施され、「話すこと」に関する問題の解答は、原則として口述式によるものであった。

	英語		英語「話すこと」	
	指宿市	鹿児島県	指宿市	全国
令和5年度	6.6 / 17 問 (39%)	7.2 / 17 問 (42%)	0.5 / 5 問 (9%)	0.6 / 5 問 (12.4%)

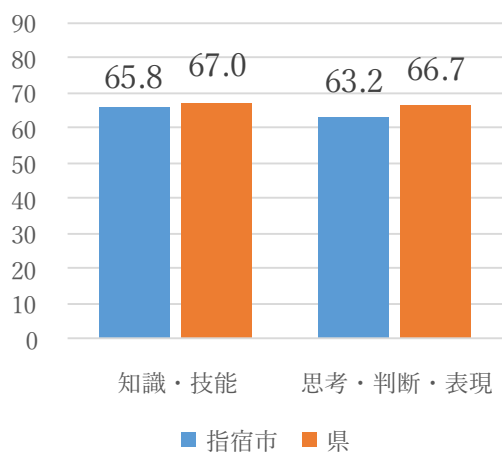
2 教科に関する調査の結果概要（平均正答数・平均正答率）

(1) 小学校国語



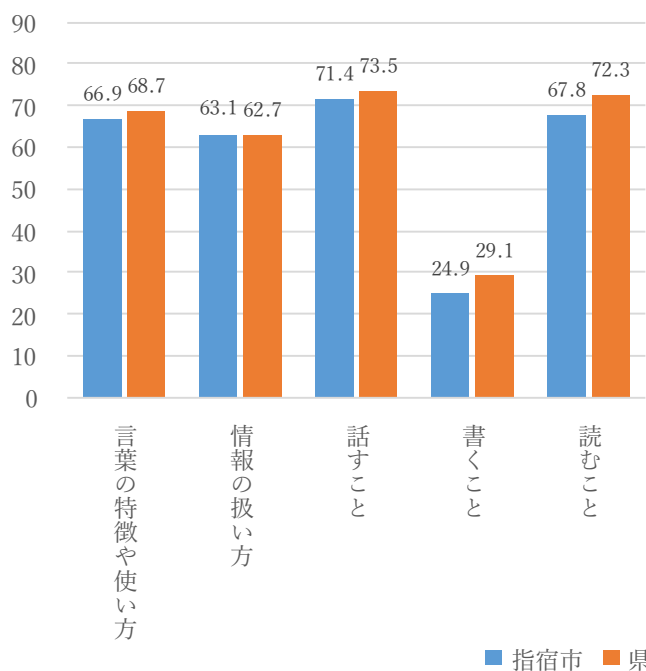
全14問中9問正答した児童の割合が高い。県平均と比較すると、10問・11問の正答者が少ないので、「1人あと2問」をキーワードにして学力向上の取組を充実させる。まずは、基礎・基本の確実な定着を図っていく。

観点別平均正答率

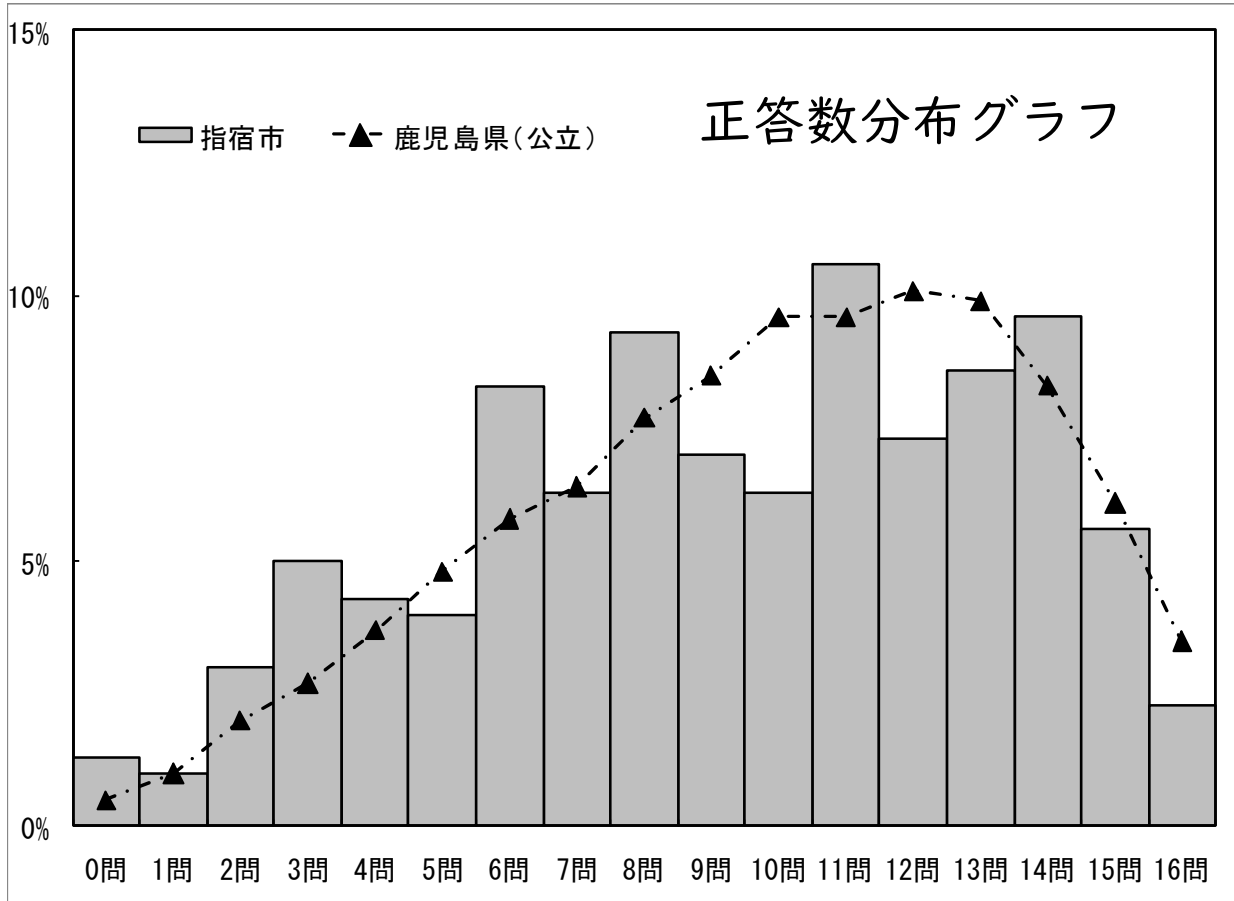


領域別平均正答率の「書くこと」について、県平均との差が-4.2となっている。授業の終末段階において、文章表記による「振り返り」を充実させる。

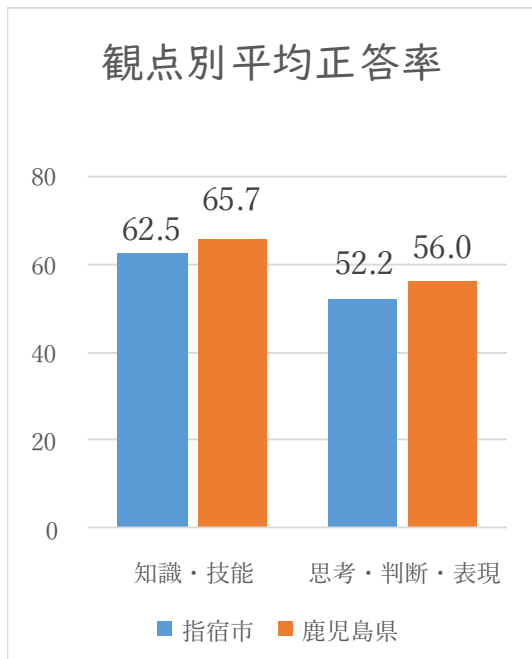
領域別平均正答率



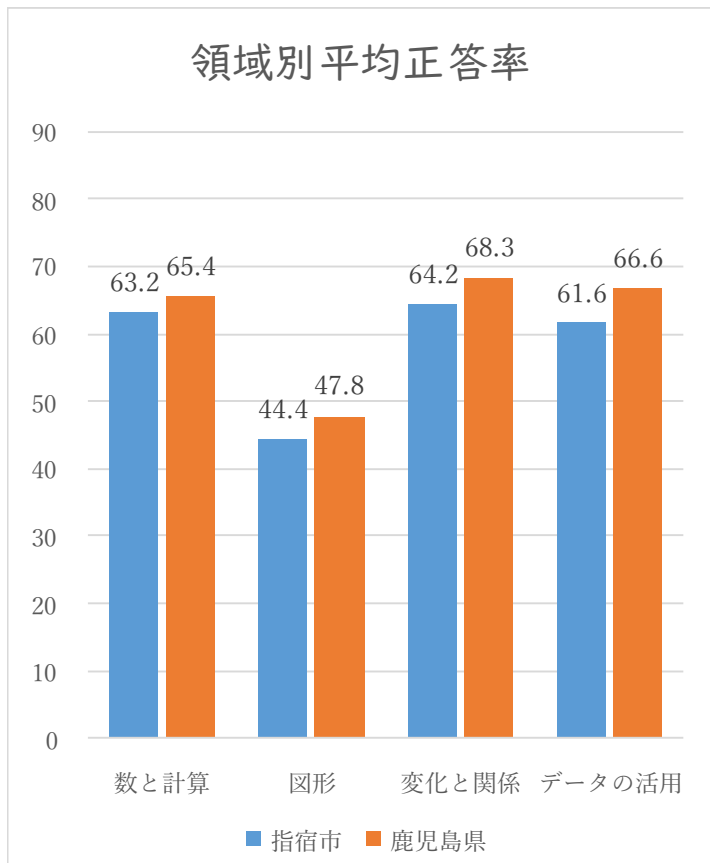
(2) 小学校算数



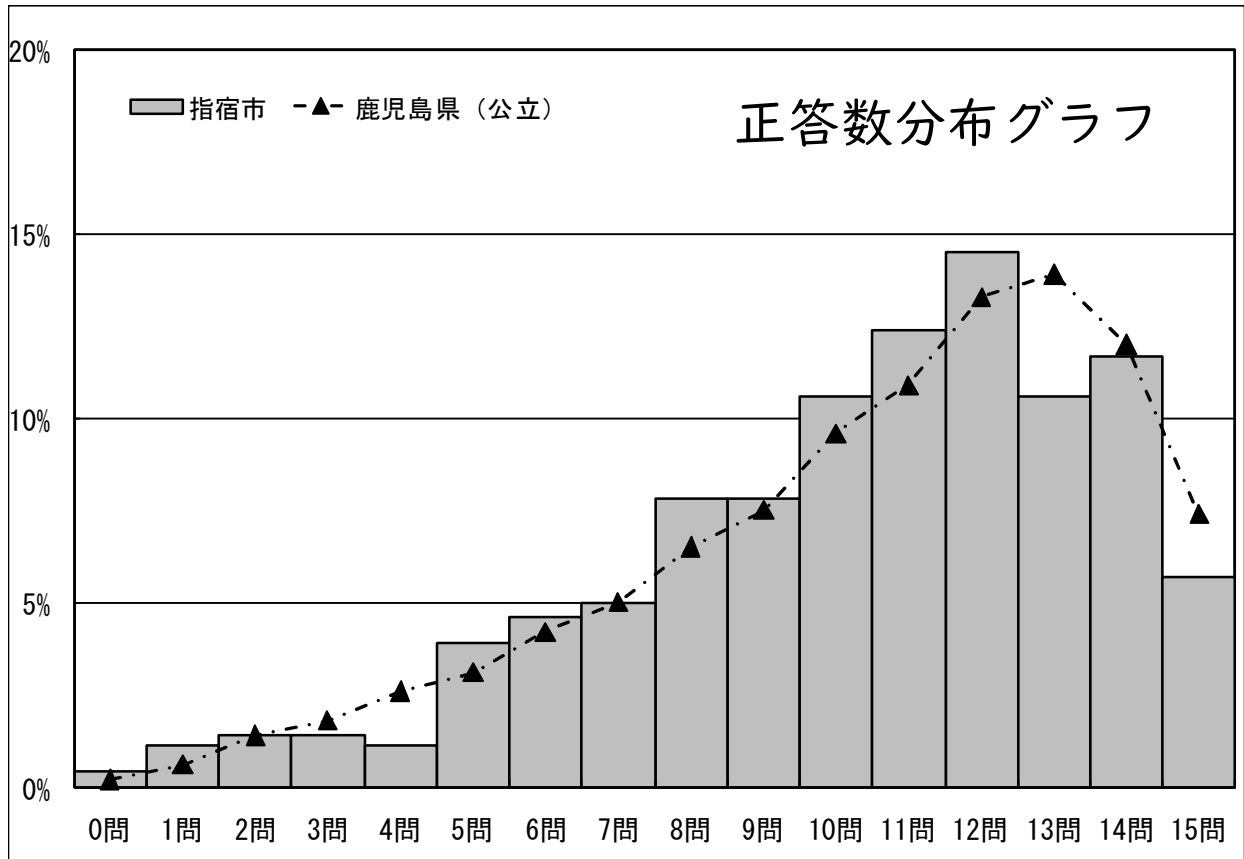
正答数3問・6問・8問が県平均と比較すると、割合が高い。個に応じた指導をより一層充実させていく必要がある。習熟度別学習や補充指導の時間を確保し、「誰一人取り残さない」という姿勢で、きめ細やかな指導を目指していく。



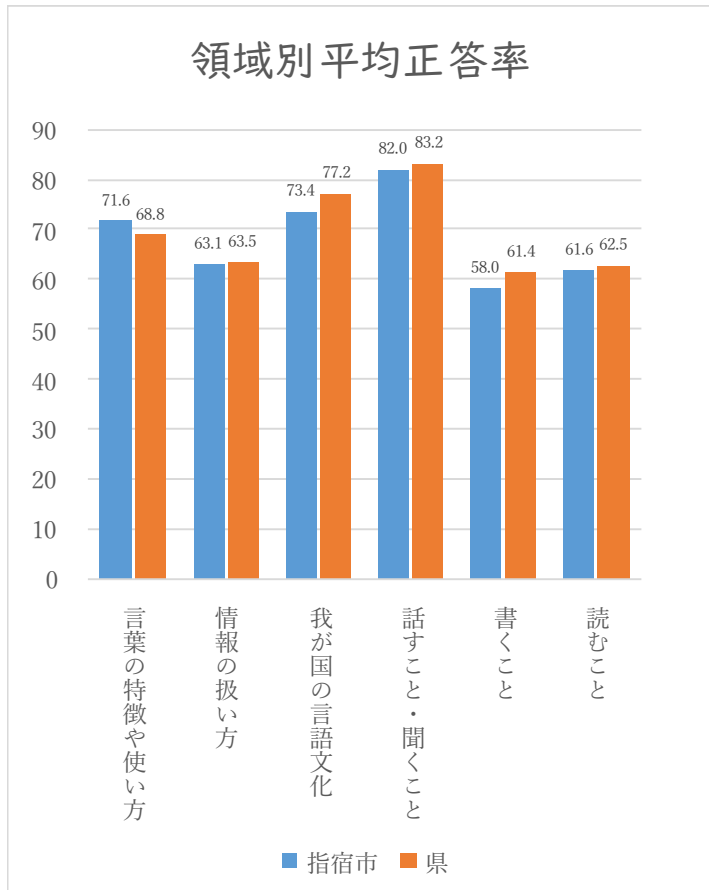
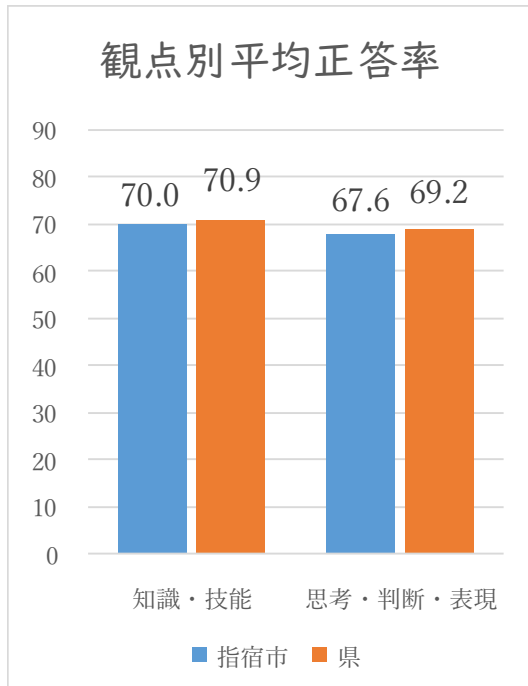
知識・技能については、県平均との差が-3.2であった。基礎・基本の確実な定着を図ることで、総合的に向上させていく。



(3) 中学校国語

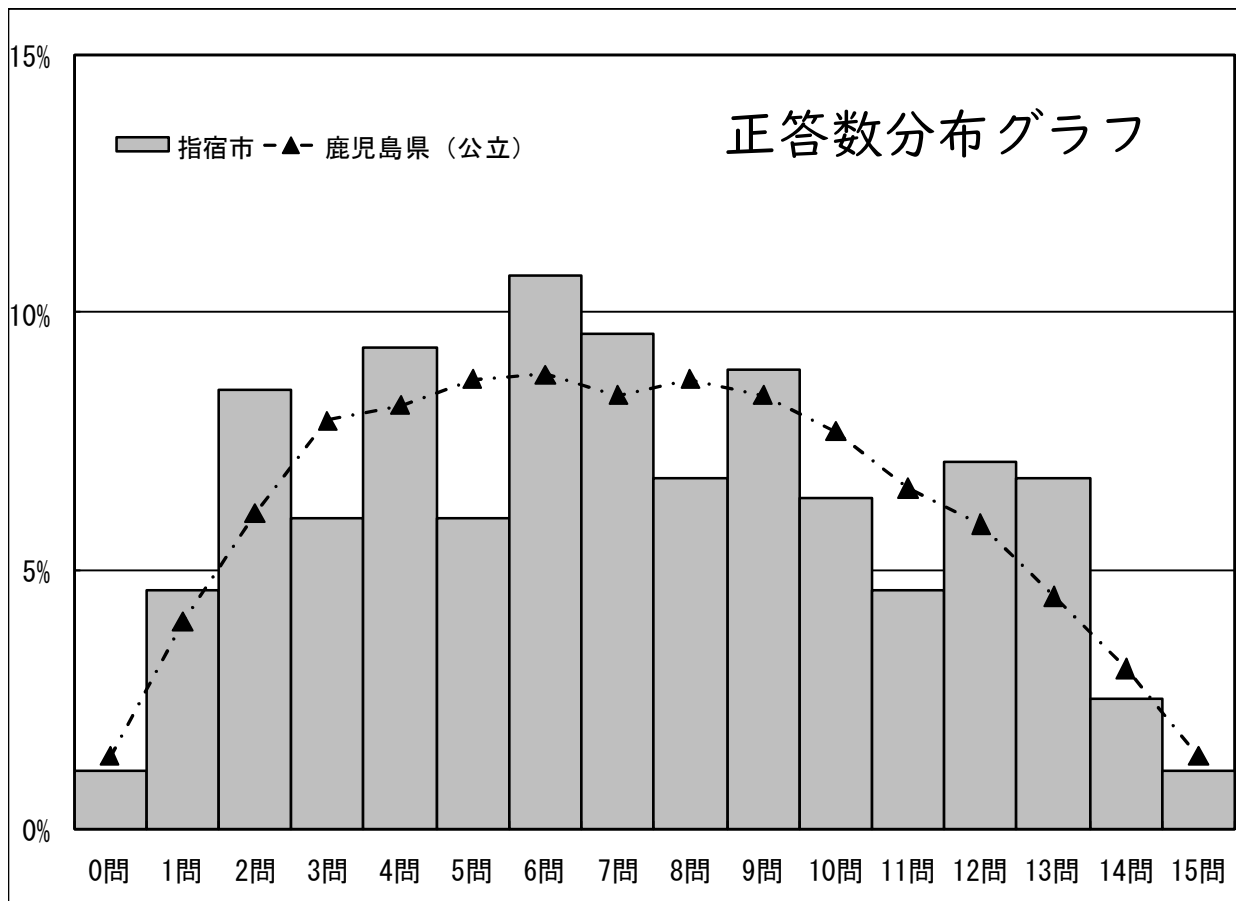


全 15 問中 12 問正答した生徒の割合が一番高い。県平均は 13 問となっているので、「1人あと1問」をキーワードにして学力向上の取組を充実させ、中位層が上位層へとステップアップできるように指導していく。まずは、基礎・基本の確実な定着を図っていく。



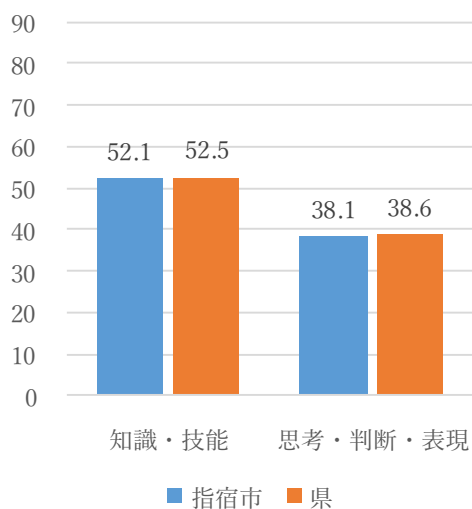
領域別平均正答率の「書くこと」について、県平均との差が-3.4であった。授業の終末段階において、文章表記による「振り返り」を充実させる。

(4) 中学校数学

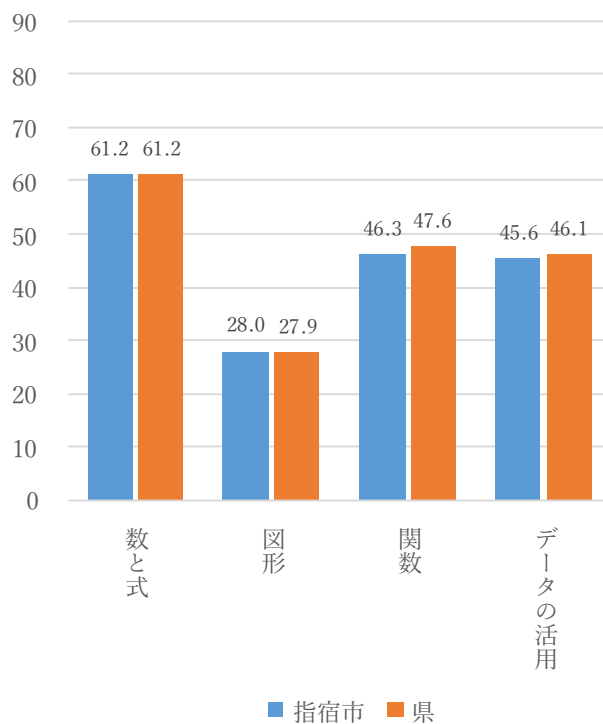


正答数2問・4問・6問が県平均と比較すると、割合が高い。個に応じた指導をより一層充実させていく必要がある。習熟度別学習や補充指導の時間を確保し、「誰一人取り残さない」という姿勢で、きめ細やかな指導を目指していく。

観点別平均正答率

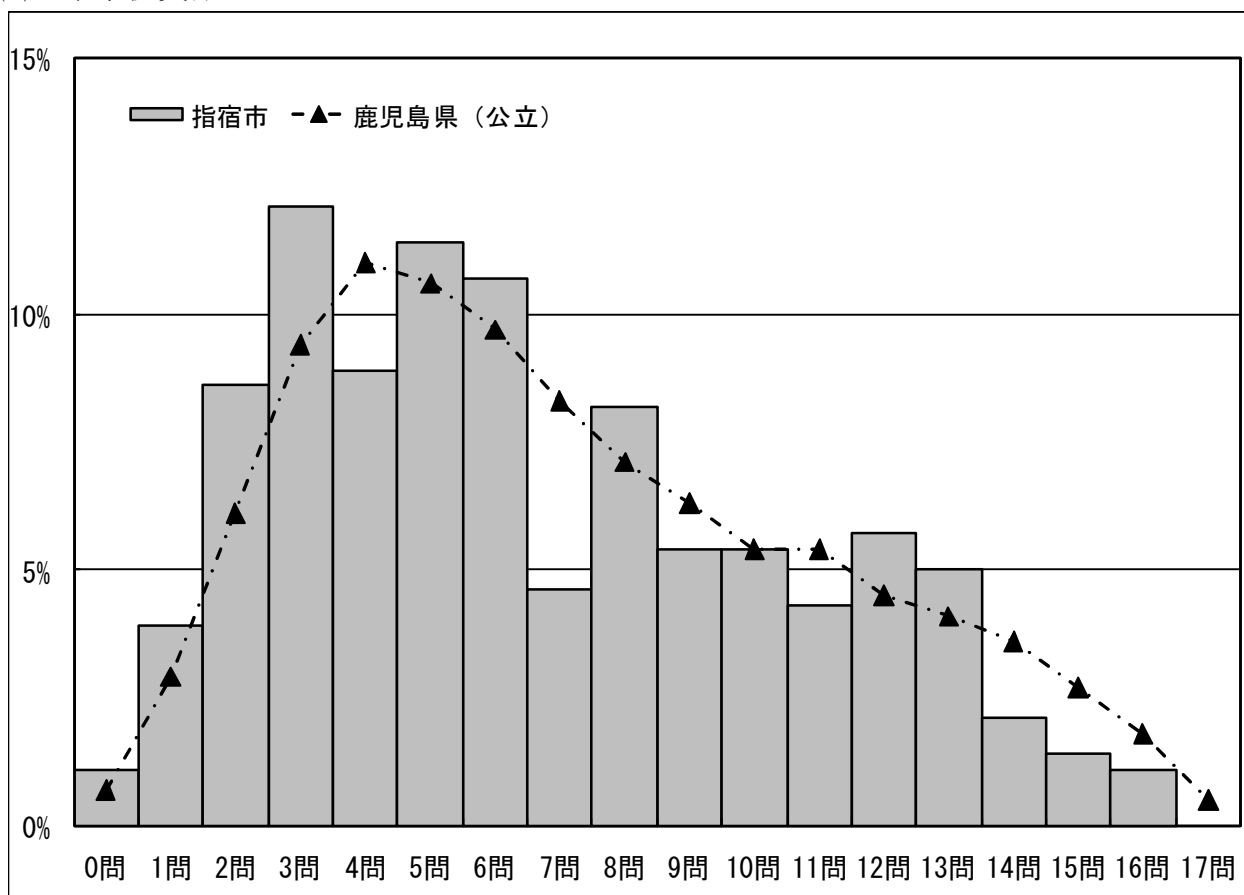


領域別平均正答率

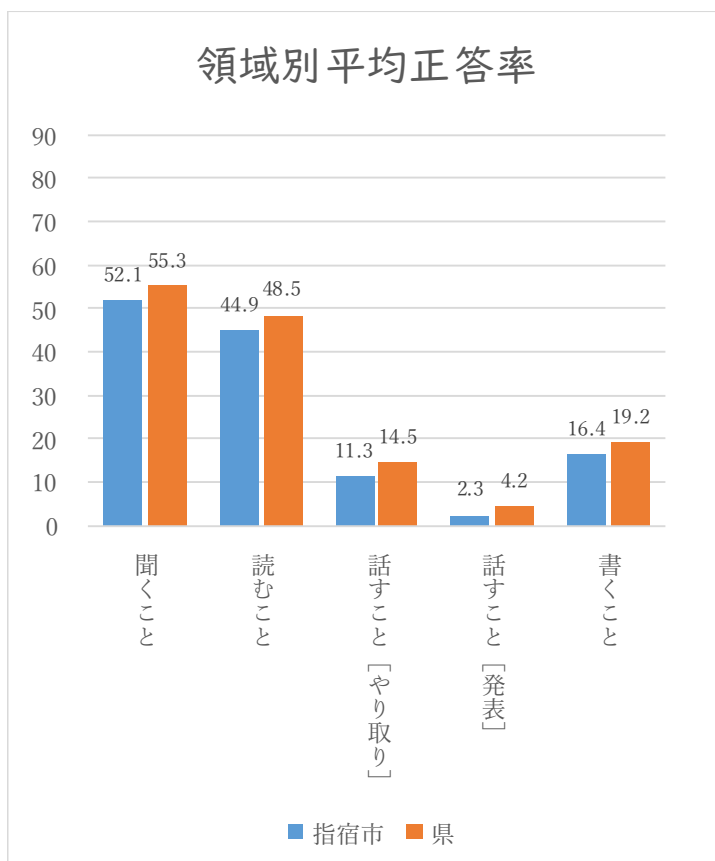
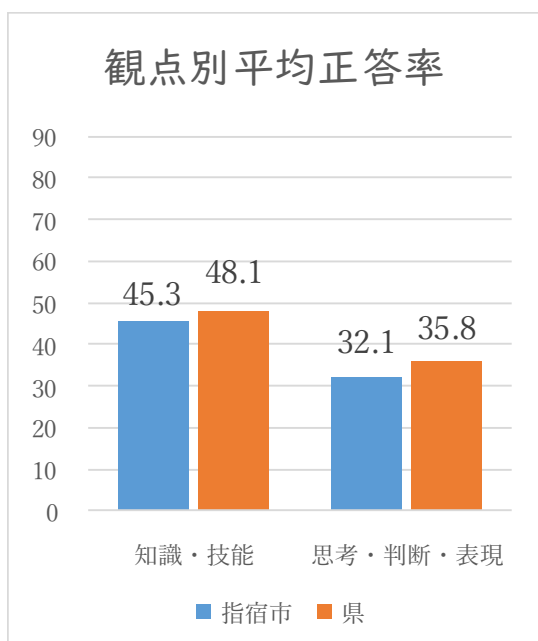


観点別及び領域別ともに、県平均と大差ないので、これまでと同様に「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業をより充実させていく。

(5) 中学校英語



正答数3問が県平均と比較すると、割合が高い。また、17問全問正解者が0人、上位層の割合が低い結果となった。この調査が中学校第3学年を対象としているが、中1・中2はもちろん、小学校5・6年での指導にも課題があると捉え、小中9年間での学びを充実させていく。



領域別の話すことについての正答率が県平均と同様にとっても低い。「学習者主体の授業」づくりとともに、子供たちが発表する場を多く設定していく。